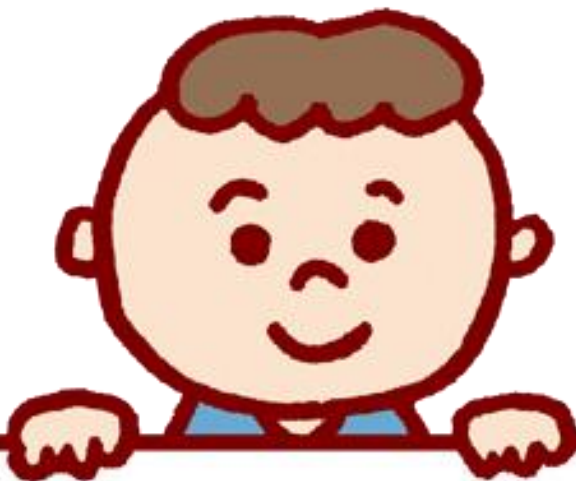


無料学習支援クローバー（毎週水曜日）とクローバー朋有（毎週木曜日）を豊島区で実施している子どもサポーターズとしまは、弁護士が立ち上げた団体です。なぜ弁護士が学習支援を!? ワーカーの齊藤が、いろいろとお話を伺ってきました!!



第1回 【今月の支援者さん】

**子どもサポーターズとしま
川嶋さん、松宮さん、新国さん**

支援活動の種類：無料学習支援

今月の支援者さんとは...
ワーカーがインタビューなどを行い、記事を作成し、豊島区で子ども若者支援活動をされている方や団体を紹介していく、メールマガジン「みんなでアレスト♪」のワンコーナーです。

なぜ弁護士が学習支援を 始めようと思ったのですか？

【松宮さん】

2007年ごろに子どもの貧困が注目され始めました。それに対して、なにかできることはないか？という思いがあり、東京パブリック法律事務所（東京弁護士会の公設事務所）の弁護士らが中心となって、自分たちができること、貧困の連鎖を断つことなど、さまざまな要素があって豊島区で学習支援を始めました。今年で10年目になります。

弁護士だからこそ見えること、感じるがあったのですね。 川嶋さん、新国さんはなぜ学習支援のボランティアを始めたのですか？

【川嶋さん】

働いているときから退職後はボランティアをしようと考えていました。教育現場にいたこともあり、やるなら学習支援と考えていました。勉強ができるだけの頭の良さではなく、考える力をつけてほしいと思ってやっています。

【新国さん】

大病を患い、九死に一生を得て、社会復帰を考えたときに、娘が図書館から持ってきたチラシがきっかけです。また、豊島区には病気の際にお世話になったので、その恩返しというのもありました。はじめは“つなぎ”のつもりで始めましたが、今年で4年目になります。

子どもサポーターズとしま（クローバー、クローバー朋有）が 大事にしていることや、強み、他の学習支援団体との違いなどは何ですか？

【川嶋さん】

クローバーは貧困に対しての取り組みとしてスタートしました。安心できる居場所と感じてもらうのが一番ですが、つつい学ぶ楽しさもと、欲張ってしまいます（笑）

【松宮さん】

強み、違いとしては、運営に弁護士がいることで、他団体と連携したり、必要に応じて法的な対応をしたりすることができます。実施会場の区民ひろば朋有や、ジャンプ東池袋との連携があること、連携できていることも強みです。

【新国さん】

弁護士の先生がいることで、コンプライアンスがしっかりしています。何かあったときに、相談できる安心感があり、個人情報などに関する意識も高いです。また、他の団体でやさしく包み込む母性のような雰囲気で行っているところがあるのに対し、クローバーは「魚の釣り方を教える」的な父性だと思っています。使わせていただいている会場（上池袋第一まちづくりセンター）の構造的に、勉強をする場と遊ぶ（休憩）場とを分けることができているので、メリハリがつけやすいのも特徴のひとつです。

うまくいかなかったことや課題に感じていることはありますか？

【新国さん】

生徒とボランティアが安定して集まっていることが大事だと感じています。また、無料だからゆえ、生徒（参加者）の勉強に対する意識が低いことがあり、継続しないことも…。外国籍の子への対応も課題のひとつですが、生徒本人たちだけでなく、支援者（ボランティア）側の教えるうえで必要な外国語の学習機会があればいいなと思います。

【川嶋さん】

うまくいかないことはしょっちゅうあります。「力が及ばない」と感じて悔しいことも。高校受験のケアを手厚くしていますが、高校に入って（入れて）それでいい、終わり、ではないと思うので、問題が解ける力だけでなく、考える力をつけたいです。

【松宮さん】

支援が必要な子に対し、支援がちゃんと届くにはどうしたらよいか、考えています。また、保護者とのコミュニケーションをもっと取れるといいなと思います。クローバーの卒業生が、知り合いの子（勉強に困っている中学生など）を紹介してくれたことがあります。そういう循環が続くといいと思います。

どのように活動の告知、募集を行っていますか？

【新国さん】

年に1～2回、学校を通してチラシを配布しています。その他には、ホームページや口コミがありますが、勉強をしたい子は口コミで来ることが多いです。

【松宮さん】

チラシの配布以外では、ワーカーさんからの紹介で来ることもあります。他区のワーカーさんがつないでくれたこともありました。本人が地元ではやりにくいことも、他区なら大丈夫なこともあるようです。豊島区のスクールソーシャルワーカー（SSW）さんにも活動を見て理解してもらえるといいなと思います。

活動を続けていく中で、自分自身の中で変わったこと（考え方、価値観など）はありますか？

【松宮さん】

対象が小学生だけだったのが、生徒の進級・進学に応じて、中学生、高校生も対象とするようになりました。勉強をどこまでやらせるか、遊ぶ子も受け入れるのかなど、学校とは違って本人の意思を尊重するスタイルになりました。

【新国さん】

当初は「こうあるべき」という考え、思いがありましたが、松宮先生から「こんな時代だからこそ、すべてを包んであげるクローバーの存在が必要なんじゃないか」という言葉で自分の考えが変わっていきました。

【川嶋さん】

貧困に対する見方が浅かったと感じました。実際に接する前にも資料などいろいろ見てはいましたが、現実を見てより実感しました。また、子どもの成長とともに、関わっている大人（ボランティア）も成長していると感じています。

松宮さんは、元高校教諭でいまは弁護士という異色の経歴の持ち主です。

行政主導によらない「豊島区方式」だからこそ、さまざまな経験をした大人たちが、多様な価値観を持つ子どもたちを受け入れ支援活動を行っている強みや良さを感じたインタビューでした。

ご協力いただいた、子どもサポーターズとしまの皆様、ありがとうございました。

※このインタビュー記事は、それぞれ個別でお答えいただいたものをまとめてひとつの記事にしています。



対象	小学生・中学生・高校生
実施教室	①クローバー 日時：毎週水曜日16：30～19：00 場所：上池袋第一まちづくりセンター
	②クローバー朋有 日時：毎週木曜日15：30～19：00 場所：東池袋第二区民集会室（区民ひろば朋有内）
メールアドレス	kodomo_clover@yahoo.co.jp
電話番号	080-3170-6436
担当	新国さん
ホームページ	https://clovertoshima.wixsite.com/toshimaku-clover